

# 太陽の子

2018年 1月 No.162

冬の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール [npo@taiyonoie.com](mailto:npo@taiyonoie.com)

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



新しい年を迎える準備、手作り「くまで」でこの年もみんな笑顔で元気に過ごせますように！

## 新しい年を迎えて思うこと

NPO法人日立太陽の家 井 関 えり子

平成三十年を迎えました。お正月には初日の出が運ぶ「年神様」に新たな魂を貰うという謂われがあります。

新年に、目には見えない思いや願いを改めて言葉にしたり、書にしたためて進む方向を考えるのはそういったことなのでしょう。

日立太陽の家「風の家」の朝は、刻々と変わる朝焼けの美しさから日の出までの景色が最高です。新年でなくても毎日新しい魂を授かっている気持ちになります。その魂を精一杯使い様々な事に感謝し一日を過ごすことが出来ます。

何よりも太陽の家での日々が「一生懸命生きている人の支援の場であること」「通所施設であるため、障害を持った方の家族の温かく力強い姿を日々感じさせて頂いていること」「ボランティアの方や共に働く職員の関わりに慈しみを感じられること」この三つに触れられることは生きる原動力となつていきます。

利用者の皆さんは決して支援を受ける側だけではなく、関わる者に命の尊さを伝えてくれます。言葉より深いところで繋がる喜びを教えてください。援助者が寄り添っているつもりでも決して分かり切っていないこともあると思います。それでも受け入れてくれる偉大さに感謝し、なお一層努力しなければと思います。

私たちは、たくさんの専門職の視点を絡み合わせ、利用者さんとその家族の笑顔を支え、障害を持った方々の声をみんなに伝える役割を持って新しい年も歩んで行きたいと思えます。今年も宜しくお願い致します。

## がんばれ実習生！

日立市太陽の家

藤田 恭子

太陽の家の生活介護には、時々実習生が来ます。一日だけの実習生もいれば、一週間、一カ月の方も。重症、心身障害のある方の生活やケアの方法、職員の動きを学んでいきます。

その中で、なかなか利用者さんに話しかけられない人、笑顔が出ず固まっている人、その一方で、すぐに話しかけ楽しんでる人も。色々な実習生がいるなあと思います。

そんな実習生の姿を利用者さんは温かい思いで見つめています。「フレッシュユな学生さん！緊張していて可愛いなあ」心の声が聞こえてくるようです。「優しく話しかけられ照れちゃう……でも担当についてくれて嬉しい!!」ニコニコ笑顔です。「今日は俺にはつかないんだなあ……」ちよつと不満そう。いろんな表情や思いが見られます。午前中はお互い緊張ぎみですが、午後は距離が縮まり笑顔がみられます。療育が終わると職員との実習の振り返りが行われま

す。実習生から、楽しかった！とても明るくみんな笑顔で過ごしていた、などの感想がき

かれると、私もとても嬉しくなります。そうそう、一番学んでほしい所はそこなんだよ！太陽の家はとても楽しく笑顔があふれている場所というところで、利用者さんが一番教えてくれます。引きだしてくれま

す。笑顔でいられる方法を。それぞれに何かを感じて帰っていく実習生に「来てくれてありがとう」といつも心

の中で思っています。そう、利用者さんの笑顔を引きだしているのも実習生の皆さんなのです。だから……

## 迷いながら

日立市いの木学園

小平 佳代

「いの木学園に異動です」

突然の宣告で頭は真っ白。今まで関わってきた利用者さんとの別れや今までと全く違う職種になる不安でパニック

だった。物作りが趣味の私は、自宅でマイペースにコツコツと作ることが好きであって人

に教えることなんて大の苦手なのに……どうすれば良いの？と不安ばかりのつた。新しい職場でのバタバタとした

日常が始まり、少しずつ慣れ始めたある日のこと、ある一人の利用者さんの行動が私の

考えを変えた。袋詰め作業の時のことだ。製品を袋に入れセロテープで止める。あとは値段シールを貼れば完成という所で、その利用者さんはセロテープの上に値段シールを貼ることができずにいた。どうしてかセロテープのすぐ上に貼るのだ。職員は困惑するばかり。なぜ理解できないんだろう？と。でも答えは簡単

なことだった。「セロテープの上に貼るんだよ」という指示にきちんと従っての行動だった。職員のいう「上」と、その利用者さんにとつての「上」

が違っていただけだった。「セロテープに重ねて貼る」という表現にすると、値段シール

が所定の場所に貼られた。何度も説明したのに、一緒に行い見せることもしたのに「上」という言葉を選んだことが利用者さんに通じない原因だったなんて……。

言葉の選び方ひとつで簡単に解決した。支援の方法を言葉を変えたり、物を使ってみたり、筆談してみたり(笑)迷っ

てばかりの支援員ですが、伝わった時の喜びを教えてください。あのこと忘れず、皆に寄り添えるよう頑張っていきま

す。

## 職員リレー

## 歩いて出会う

## ということ

相談支援専門員 飯田 浩子

談支援専門員の役目であるように感じます。

また、人との繋がりで考えさせられることがあります。

それは、学生時代に参加したピッピコンサートです。現在もスタッフとして活動しています。先日、市内でミニコンサ

ートを開催させていただきました。会場に来てくださる方々に向けて、どんなメッセージを届けたいかと話し合いました。ピッピコンサートの肝は、

作詞者の想いを伝えることです。聞いてくださった方のところに届くことを願って活動

しています。コンサート終了後、興味を持ってくれた方が参加してみたいとお話ししてく

だきました。とても嬉しい出来事でした。このように、実際に向くことで得るものは

大きいと感じます。その時でなくても、いつか思い出してく

れたら嬉しいです。このように活動を広げるためには、様々な場所への情報公開が必要となり

ます。どのようにな活動をしていくのが今後の課題です。そこでもまた、自分の足で向くことが大切です。そして、たくさんの人と繋が

ることをこれからも続けていきたいと思

す。いま、的確な情報を自分で歩いて探し、紹介することが相

互に



# 日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

## 協力と共生で未来へ

佐藤 芳昭

平成二十九年も終わり、いよいよ平成三十年、節目の年に入りました。

平成二十九年の日立守る会行事は色々ありましたが、その中でも特筆しなければならぬ行事としては、水戸で開催された第二十七回関東・甲信越ブロック大会だろうと思えます。茨城県守る会の行事ではありましたが、日立守る会として会をあげて協力し成功裡に終らせる事が出来ました。特に役員の方々に、色々な役割を担っていていただいた事は非常に大きかったと思っております。関東・甲信越ブロック大会はご存知の通り、一都九県が輪番制で毎年開催しているもので、十年に一回は担当県となります。

お蔭様で各県の参加者は異口同音に良い大会であったと評価は良かったようです。どんな行事も開催するにあたり一番大切に大事なことは、行

りますが、これについても従来同様、皆様の強い協力が絶体に必要であります。

日立守る会も平成二十七年から当会の創立五十周年行事、関東・甲信越ブロック大会行事、そして今後の三団体創立五十周年行事などを全員が一致協力して無事乗り切ることが出来るこの力は本当に素晴らしい、会員の一人として胸を張って自慢出来ることであり、改めてその力を再認識している次第です。

平成三十年も三団体の五十周年行事を含め、会として色々な行事が計画されるわけですが、全員が同じ方向に向けて一丸となつて知恵を絞る、協力していけばどんな困難も乗り越えられると信じています。

少し話は飛びますが、平成三十一年には新しい三団体の合同施設が完成し、そこで三団体が同じ屋根の下、色々と活動することになるわけで、団体間の協力性や協調性が従来以上に重要になって来ると思っております。

従来の気持ちで皆さん方が心一つにして共に進むことが明るい未来へ続くと思っております。これからも一人もれなく仲良く進んで行くようでありませぬ。

## これまでの歩み

小安雄大(母)江位子

四月からお世話になり始めました。小安雄大の母です。よろしくお願ひします。

私は何ん自由なく、人に頼りっぱなしの日々を送っていました。しかし一番上の子を産んで一カ月後に、母が脳内出血で倒れ半身不随に。変わりはてた母の姿を見て、受け止めるのに悲しく苦しい思いで、信じたくない、悪い夢を見ていた感じがした。三年後には双子が七カ月で産まれてしまい、雄大が脳性マヒ(脳質周囲白質軟化症)と聞かされた時は、大きなショックとともに不辛が続くんだろうと悲しんでいました。雄大はそり返りが激しく、海老反りになっていつも敏感に泣いていました。私の不安も察知していたのかもしれません。

今振り返ると、色々な人に

## 子供の三十九年間

村田 啓子

昨年は守る会の関東甲信越茨城大会があり、改めて子供の三十九年間という時間を振り返る機会になりました。

励みをもたらす、支えられ、障害の子を持つて初めてわかったこと。それは、ありがたさ、優しさ、小さな喜び、幸せ、笑顔、家族に支えられながら自分も頑張つてこれたこと。そしていくつもの小さな幸せを感じる事が出来たことだと思っております。

今、雄大は学校を卒業して、太陽の家、居宅介護事業所でゆつくりお風呂に入ること、買い物に行くことが一番の楽しみになっています。行く日の朝は、朝から歌を歌ったりニコニコ笑顔でウキウキしている姿を見て、家族みんなうれしく感じています。

楽しい気持ちにさせてくれる太陽の家に会え、私達は、感謝の気持ちでいっぱいです。どうぞみなさん末永くよろしくお願ひします。

生後三ヶ月で入院、誕生日を病室で迎え、その後何度か入退院を繰返し今日に至りま(次頁へ)



木工班では木材に加工をしてみがきをかける作業も行っています。完成した品々は利用者さんのがんばりの証。  
(しいの木学園)



大切に育てた野菜たち、食べ頃をむかえてみなさんの所へ届ける準備 OK！ (しいの木学園)



親子研修でスイートポテト手作り体験をしました。親子で協力して作ったので、甘くて優しい味がしました。  
(ひまわり学園)



東海～水戸駅まで電車でのおでかけ、切符を渡して改札通過!! お買い物楽しみだなあ～! (日立市太陽の家)

(前頁より)  
した。子供にとって一番大変だったのは脳腫瘍で手術の時ではなかったかと思えます。親にとっても最悪の事を考えて下さいと言われた時の辛さは今でも忘れられません。又、子供の事を大切に思っていてくれた父親との別れは、何かを感じたのか病室でただただじつと顔を見ていました。二人の生活になってからは、私の体調も悪い時もあり、その時には太陽の家の職員の方々にお世話になる事が多々あります。最近はずっと話し掛けるとじつと目を見てウフフと声を出して笑顔を見せてくれる事もあり、私の癒しとなっています。私の年令から考えると子供と一緒に過ごせる時間には限りがあるのでと考える事もありますが、それでも子供の過ごしてきた三十九年間、そしてこれから過ごす瞬間を大切に二人明るく、楽しく、そして笑顔を忘れず過ごしていきたいと思っております。



### お知らせ

◎平成二十九年年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 三百二十九名

男性 百九十三名

女性 百三十六名

ご寄付ありがとうございます

ございました

○次の方から寄付を頂きました(敬称略)

九月～十一月

黒澤弘明 鈴木貫一

○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略)

九月～十一月

椎名将光 イトーヨーカドー

日立店 藤枝利彰 有馬郷子

日立南ロータリークラブ

落合光子 根本将伍

篠原小百合 村田理恵

### 編集後記

「笑顔と感謝」

「二日一回は笑おう」

今年もこの言葉と共に、職員一同頑張ります。

(K記)